吹上町の伊作太鼓踊

【所　在　地】日置市吹上町湯之浦（伊作太鼓踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 41 年３月 31 日

この太鼓踊は，島津忠良が加世田別府城を攻略したとき以来，かねて祈願の諏訪神社（今の南方神社）に奉納するようになったといわれ，現在は毎年８月 28 日の南方神社の例祭に踊られている。

踊り手は中踊り，平踊り，歌うたいからなる。中踊りは４人の少年が，２人は稚児の姿で，他の２人は女装をし，造花で飾った花笠をかぶり紅色のタスキをかける。稚児の２人は鉦を持ち，女装の２人は小太鼓を持つ。平踊りはトウウッパ（唐団扇）という竹ヘギを六目透しに編んで軍配の形にした大きな矢旗を背負い，白装束で薩刀にホロ（薩摩鶏の尻尾）をつけて背負い，胸に太鼓をつける。

境内での庭踊りは体型が縦隊から円陣型，さらに縦隊へと変化する。

中踊りが華やかな姿で様々に変化しつつ優美に踊り，それをとり囲むようにして平踊りがトウウッパを大きく振りながら勇壮に踊る姿は，洗練された民俗芸能の美しさを見せている。